

## ガイド・インストラクターに係る体験プログラム マニュアル作成のためのチェックリスト

- ◎ 必ず確認し作成が必要
- 確認をし、必要であれば作成
- △ 可能であれば作成した方がよい

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考	ジャンル			
					A	B	C	D
1. リスクの把握・評価	①プログラム実施の可否判断	各種許可申請、法令・条例に基づく資格取得の必要の有無確認		マラソンなど、公道を使用したイベントの場合は道路使用許可申請が必要。	◎	○	△	△
		レース扱いの確認		イベント等で特定の地点を時間制限付きで通過させる場合などはレース扱いとなる場合があるため、保険契約や道路の使用許可等について関連先への確認が必要。	◎	○	△	△
		地権者の確認		地権者の許可が必要である場合があるので確認を行う。	○	○	○	△
	②参加者レベル	参加者レベルの設定		対象年齢や身長、保護者同伴などの条件の設定の有無の確認を行う。 まち歩きガイドの場合はコースによっては階段や坂道が多い場合があるため、その場合は事前周知を行う。  長距離のサイクルツアーの場合、「過去に○○km以上のサイクリング経験あり」を参加条件にする。 また、妊娠している場合での参加の可否についても確認を行う。	◎	◎	◎	◎
			外国人対応		外国人の参加が想定される場合、言語や宗教、文化の違いに対応したメニューを準備する。 食事の提供がある場合ハラールなどについても確認を行う。	○	○	○
	③装備	装備品の確認		使用する装備についての動作や劣化状況の確認ができるように、日常点検の項目をマニュアルなどで定める。	◎	○	△	△
		装備品の装着		参加者の体型等に適合した装備品を揃え、正しい装着方法を定める。	◎	○	△	△
		参加者の私物使用の場合の基準		参加者の私物を使う場合は、品質や劣化状況等を確認する項目を定める。	◎	○	△	△
	④天候	中止、変更の判断基準		「降水量○○mm以上」「○○警報・注意報発表時」といった具体的な中止やコース変更の条件を定める。	◎	◎	○	○
		天候悪化時の別ルート		天候悪化を想定して短縮ルートや迂回ルートを複数準備する。	◎	◎	○	○
		地震発生時の対策		地震発生時の避難場所への誘導や対応についてもマニュアルを作成する。 →避難場所の確認と誘導方法 →安否確認の方法等	◎	◎	◎	◎
	①申込書（同意書）及び	申込書（同意書）の作成		申込書（同意書）に記載する内容の例としては以下のとおり。 ☑ 体験型プログラムに関するルール （例：左側通行、ハンドサイン、地域住民への配慮等） ☑ 中止と変更の条件、その場合の手続き （例：天候条件、参加者が原因となる中止、事故等） ☑ 事故が発生した際の補償内容・金額 ☑ 参加条件として参加者各自での保険加入が必要な場合 ☑ 未成年（18歳未満）の場合は保護者の同意が必要 ☑ キャンセル料や天候等により中止になった場合の参加費の取扱い （中止の場合、支出済みの経費を除いた残金については返金が必要な場合があるため注意が必要）	◎	◎	◎	◎

## ガイド・インストラクターに係る体験プログラム マニュアル作成のためのチェックリスト

- ◎ 必ず確認し作成が必要
- 確認をし、必要であれば作成
- △ 可能であれば作成した方がよい

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考	ジャンル			
					A	B	C	D
2.従前の予防対策・補償の検討	②体調管理	体調確認（参加者）		体調のチェックシートや申込書への記入など、本人による体調確認の方法を定める。 →体調チェックシート参照※	◎	◎	○	△
		体調確認（事業者）		前日の飲酒に配慮するほか、顔色など目視での体調管理の確認事項をあらかじめ定める。	◎	◎	○	△
	③安全説明	チェックリスト作成		安全説明で確認・説明するべき事項についてチェックリストを作成する。 安全説明の説明事項の例は以下のとおり。 ☑ 当日の流れ・ルール ☑ 天候などによる中止・変更の判断 ☑ 装備 ☑ 体調確認 ☑ 補償内容の確認と説明 ☑ 禁止事項 ☑ リスク ☑ 参加の可否の最終判断 説明時に体調不良等により参加を認められない参加者が出た際には、十分に理由を説明し、理解が得られない場合などは、毅然とした態度で対応する。	◎	◎	○	○
	④予見・回避	危険箇所の想定と対策		危険箇所を想定したコースや怪我を防止するための手順を定める。 危険箇所を示したマップを作成したり、怪我や事故の可能性がある現場での注意喚起の方法をあらかじめ定めた上で、マニュアルを作成する。 注意喚起するシーンや場所を予め定めた、マニュアルやマップを作成する。 参加者レベルに応じた進行ができるよう、適正な時間設定や休憩箇所等を予め定める。  「こうち医療ネット」などを活用した当日の医療情報の確認や、事前に参加者へサイトのURLを紹介するなどにより、地域の医療情報を共有する。	◎	◎	◎	○
		対策に必要なトレーニングや専門家アドバイス		事前の現場下見、事故など最悪の場合を想定したシミュレーションを実施し、それに対応した専門家のアドバイスやトレーニングなどを受けるほか、リスクを回避するための手段について、事前に検討しておく。	◎	○	○	△
		救命講習の受講		心肺蘇生法やAEDの取り扱い等の救命講習を受講する。	◎	○	△	△
		緊急連絡体制の設定		事故発生時の連絡体制と連絡先を記載したものを常に携帯し、必ず連絡が取れる体制を作っておく。 (屋外の場合は携帯電話の電波が届かない場所があるため、その際の連絡方法を設定しておく)	◎	○	○	△
		地域住民、警察、消防、病院、保健所との連携協議		事故が起きた場合を想定し、自治体、警察、消防、病院、保健所との連携について事前に協議し、有事の際の情報共有の方法や対応体制を定めておく。	◎	○	○	△
	⑤衛生管理	衛生管理の徹底		飲食の提供を伴うプログラムの場合、その内容や場所について、食品衛生法に基づく許可手続が必要であるか、保健所に確認する。 清掃や消毒、食材管理といった、基本的な確認事項が抜けなく励行されるよう、衛生管理に関する手順を定める。 飲食の提供まで衛生管理が徹底されていても、参加者が不衛生な状態で飲食すれば、食中毒や感染症の発生が起ころうので、参加者へ手洗いやアルコール消毒の励行といった声かけが重要。	○	○	○	○

## ガイド・インストラクターに係る体験プログラム マニュアル作成のためのチェックリスト

- ◎ 必ず確認し作成が必要
- 確認をし、必要であれば作成
- △ 可能であれば作成した方がよい

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考	ジャンル			
					A	B	C	D
	⑥保険内容の確認	保険メニューの確認		プログラムの内容によっては専用の保険メニューが無い場合があるため、あらかじめ保険会社に確認するなど注意が必要。	◎	◎	◎	◎
		補償範囲の明確化		どのような状況で起きた事象で、誰がどこまで責任を負うのか、また、その場合の補償範囲（金額、サービス）等について保険会社に詳細を確認する。	◎	◎	◎	◎
		補償内容の説明		保険証書のコピーや保険内容を分かりやすく整理した資料を準備する。	◎	◎	◎	◎
		レンタル機材の補償		レンタル機材の不備による事故については、体験プログラム用の保険では補償されない可能性があるため、別途、施設賠償保険への加入を検討する。	◎	◎	○	△
	⑦免責事項の留意点	免責事項の説明		「事故は自己責任」との免責条項は無効となる場合がある。 （「危機管理は自己責任であることを十分認識し、同意する。ただし法的権利を何ら放棄するものではない」といった記載の事例はあるが、これは参加者の責任を一定明示するために行われていることが多い。）	◎	◎	◎	◎
		免責が無効となった場合の対処		保険で十分な補償が行える体制を整える。 万が一保険で補償が行えない場合のリスクを十分に理解しておく。	◎	◎	◎	◎
3. 体験プログラムの受付から当日の対応	①申し込みの受付	申込内容の確認		作成された、申込書の内容に不備がないかを確認し、同意がされているかを確認する。	◎	◎	◎	◎
		②実施前	天候等条件の確認		天候やその他周辺環境がプログラム実行が確認を行う 前日大雨で水位が高い 道路などが通行止めなど 波浪警報が出ているなど 晴天でもプログラムが実行できない場合あり	◎	◎	◎
		申込内容の再確認		申込内容に間違いがないか、再度確認を行う。 保険内容や条件に付いて再度説明を行う	◎	◎	◎	◎
		携帯品や使用備品の確認		プログラムに必要な装備や備品等数量や安全性も含めて確認を行う。 緊急連絡や事故対応に関するマニュアルも携帯を行う。	◎	◎	○	△
		体調管理（事業者）		ガイド自身が体験プログラムが実行可能であるか確認を行う。	◎	◎	○	△
		体調管理（参加者）		体調チェックシートを作成するなどを行い、当日の体調について確認を行う。 体調不良等により参加を認められない参加者が出た際には、十分に理由を説明し、理解が得られない場合などは、毅然とした態度で対応する。	◎	◎	○	△
	③実施中	安全説明		作成したチェックリストに応じて、安全説明を行い、周知を行う。	◎	◎	◎	◎
		プログラム実行		常に参加者に対して注意を配り、実行マニュアルに沿ったプログラムを実行する ・プログラムの内容 ・危険箇所/参加者レベルに応じた休憩、給水	◎	◎	◎	◎
緊急時の対応			・急な天候の悪化や、地震等の自然災害、事故が発生した場合も冷静に、緊急時のマニュアルに沿った対応を行う。	◎	◎	◎	◎	
実施中	事故対応の実施		事故発生時の警察や消防、病院への報告や救命処置、応急手当等についてのマニュアルに沿って対応を行う。	◎	◎	◎	◎	

## ガイド・インストラクターに係る体験プログラム マニュアル作成のためのチェックリスト

- ◎ 必ず確認し作成が必要
- 確認をし、必要であれば作成
- △ 可能であれば作成した方がよい

シーン	大項目	小項目	チェック	参 考	ジャンル			
					A	B	C	D
事故対応		事故処理後の記録作成		事故処理後に必要な記録項目（現場写真、スタッフ・参加者聞き取り等）を定めた、記録シートを作成する →ただし、被害者の対応を最優先すること	◎	○	○	△
	実施後	被害者及び関係者の心情に配慮した対応		被害者の心情を優先した言葉使いや配慮を心掛ける。	◎	◎	◎	◎
		保険会社や弁護士への確認・相談		加入している保険内容を確認のうえ、保険会社（状況によっては弁護士）に今後の対応を相談する。	◎	◎	○	○
	フォロー	謝罪、補償対応		場合によってはトラブルに発展することもあるため、自身の判断だけではなく、保険会社と相談しながら適正に対処する。 状況に応じて、弁護士の支援が必要となることもある。 （体験プログラムの事案に詳しい弁護士や相談窓口の情報を集める）	◎	◎	○	○
	事故報告書	事故調査報告書の作成		予め調査項目を設定して事故調査報告書を定めておき、万一事故が発生した場合には、できるだけ迅速且つ正確に報告書を作成する。	◎	○	○	△
		調査結果の共有・公開		調査結果については、被害者やその関係者の確認や同意を得たのち、適正に共有、公開することで再発防止につなげる。 今後の事故防止対策に生かせるよう、調査結果については、同業者間で共有することが望ましい。	◎	○	○	△